

温州ミカン生産農家の隔年結果対策の実態と経営改善の方向

[研究のねらい]

温州ミカン生産農家では、隔年結果により生産量・価格が大幅に年次変動し、これによる経営の不安定化と収益性の低下が大きな問題となっています。アンケートの結果をもとに温州ミカン作農家が取り組んできた隔年結果への対応と今後の方向・問題点を明らかにします。

[研究の成果]

- ①農家の今後の取り組みに対する意向をみると、これまで取り組んだ慣行技術に加えて「樹冠上部摘果」、「後期重点摘果」など隔年結果是正と高品質化を両立させる技術の新規導入希望が多くみられます。また、専業農家が多い大規模層では「改植」や「樹冠上部摘果」、「葉面散布」などの取り組みを希望する経営の比率が高くなっています（図1）。
- ②農家はこれまで取り組んだ品種の更新・転換や省力化に加えて、低コスト化、高品質化、販売対応の工夫などを目指しています。高齢者・兼業農家が多い小規模層に比べて、専業農家が多い大規模層ほど品種・品目の転換やマルチ栽培導入による高品質化、作業道やスプリンクラー導入等の省力化、雇用労働の導入など、積極的な対応を希望しています（図2）。
- ③今後の隔年結果対策には、期待する販売金額（単価）が得られることのほかに、大規模層には省力的であることが、高齢者・兼業農家が多い小規模層には難しくないことが求められます。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は普及、農協、行政、試験研究担当者が温州ミカン作農家への指導や隔年結果是正技術の導入・開発を行う際の資料として活用できます。

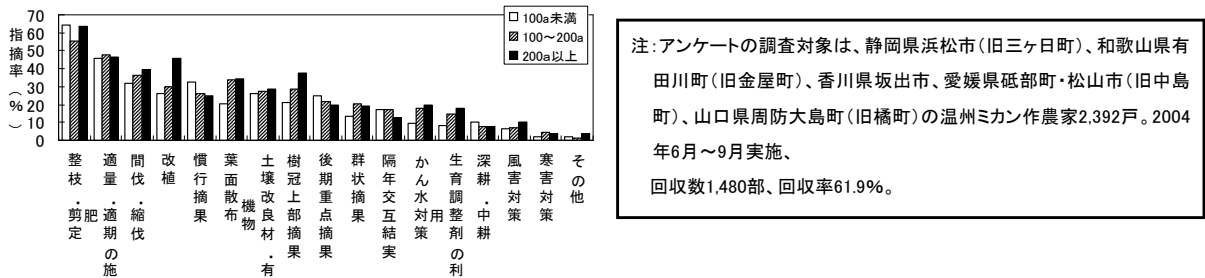


図1 隔年結果対策に対する今後の取組の意向

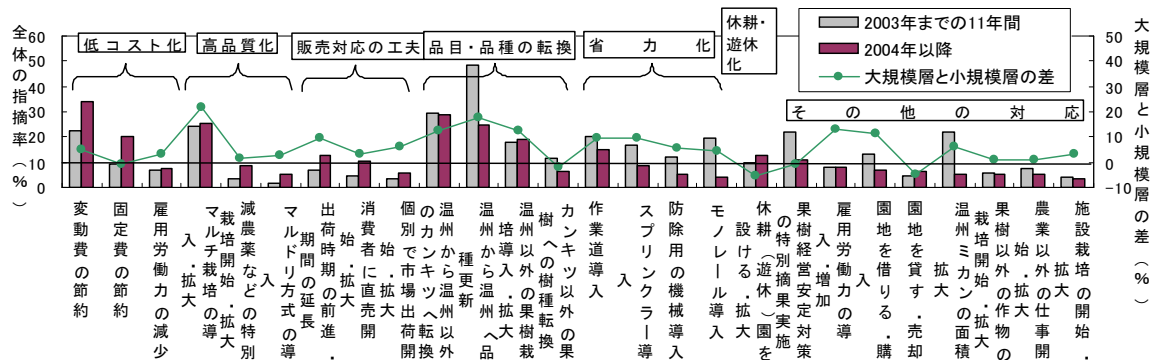


図2 これまでに実施した経営改善対策と今後の改善に対する意向

注：1)2003年までの過去11年間に取り組んだ対策と2004年以降に取り組む対策を示しています。
2)大規模層(経営耕地面積200a以上)と小規模層(100a未満)の指摘率の差を折れ線で示しています。

実施期間：平成15～17年度
担当者：辻 和良、熊本昌平